



鹿島市水道課

資料 4

鹿島市水道事業 中長期財政計画 (概要)

第1回鹿島市水道事業審議会

令和5年7月14日



目次

- 1. 中長期財政計画の策定について**
- 2. 水道事業の現状と課題**
- 3. 計画目標とその概要**

※今回の資料は令和2年度に作成した中長期財政計画に令和3年度の決算値を追加しています。

1 中長期財政計画の策定について

(1) 計画策定の趣旨

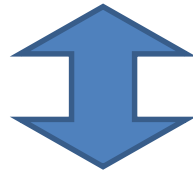
昨今、全国的な傾向として人口減少に伴い給水人口が減少し、有収水量と給水収益が減少しています。鹿島市においても給水人口の減による給水収益の減が進むと予測されます。一方で水道施設については、老朽化対策や耐震化を行うにあたり、更新に係る投資の増が見込まれます。

こうした状況を踏まえ、今後は、水道事業の抱える中長期的な課題をより効率的に解消し、持続的で安定的な事業運営を行うため、その指針となる鹿島市水道事業中長期財政計画を策定しました。

1 中長期財政計画の策定について

第七次鹿島市総合計画における施策の展開方向

安全でおいしい水を安定的に供給するために、企業経営の健全化に努め、災害に強い水道施設の構築に向け、計画的な整備・更新を進めます。



鹿島市水道事業 中長期財政計画

基本理念 「安全でおいしい水をいつまでも」

計 画 目 標

安全 でおいしい
水道水の供給

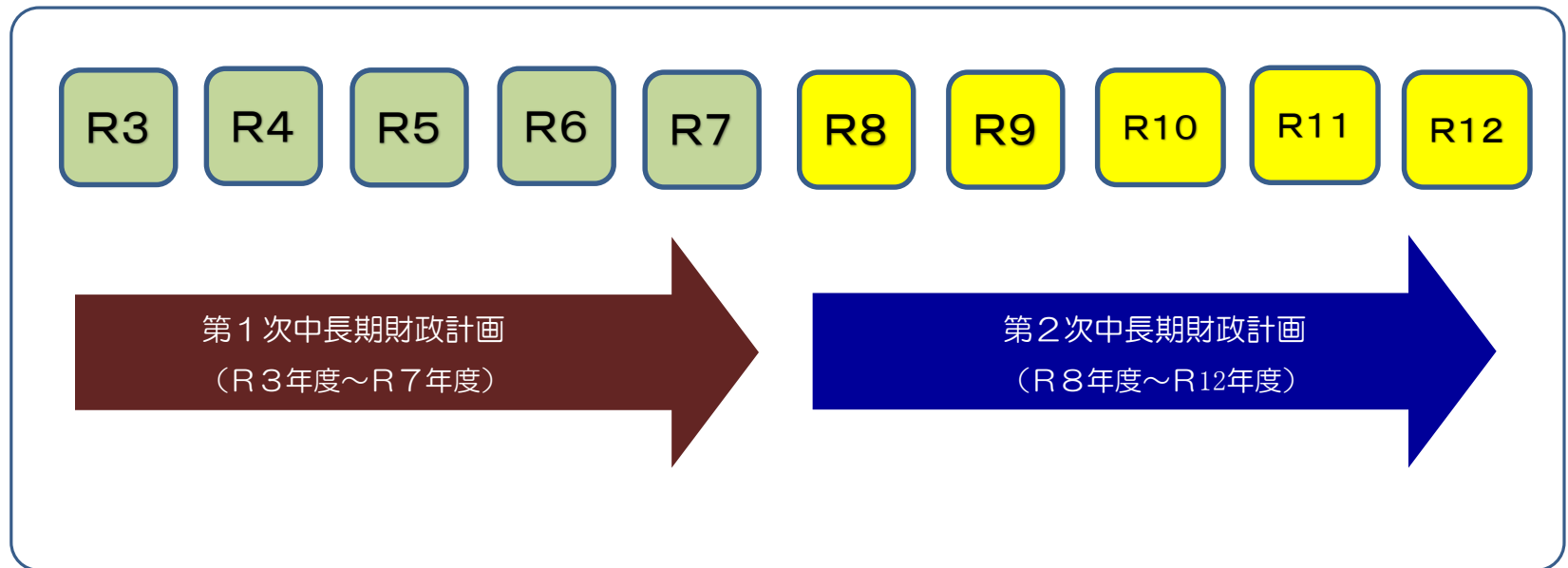
強靱 な施設・体制
による給水の確保

持続 可能な経営
基盤の確立

1 中長期財政計画の策定について

(2) 計画期間

計画期間は、令和3年（2021年）度から令和7年（2025年）度までの5年間とし、目標達成に向けた事業・取り組み等を適宜見直します。



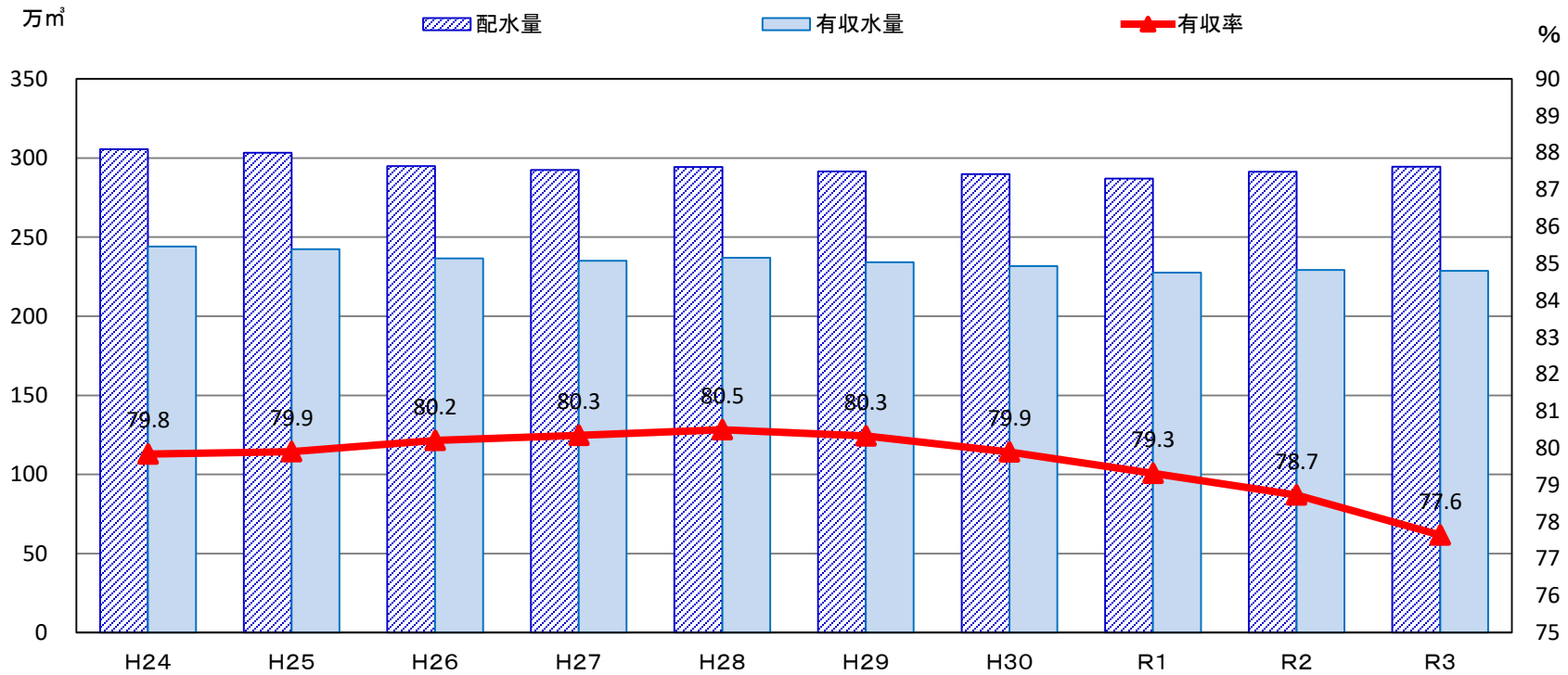
2 水道事業の現状と課題

(1) 水需要の動向

①配水量・有収水量の推移

✓ 過去10年間の配水量・有収水量・有収率を比較すると、減少傾向にあります

過去10年間の配水量・有収水量・有収率の推移



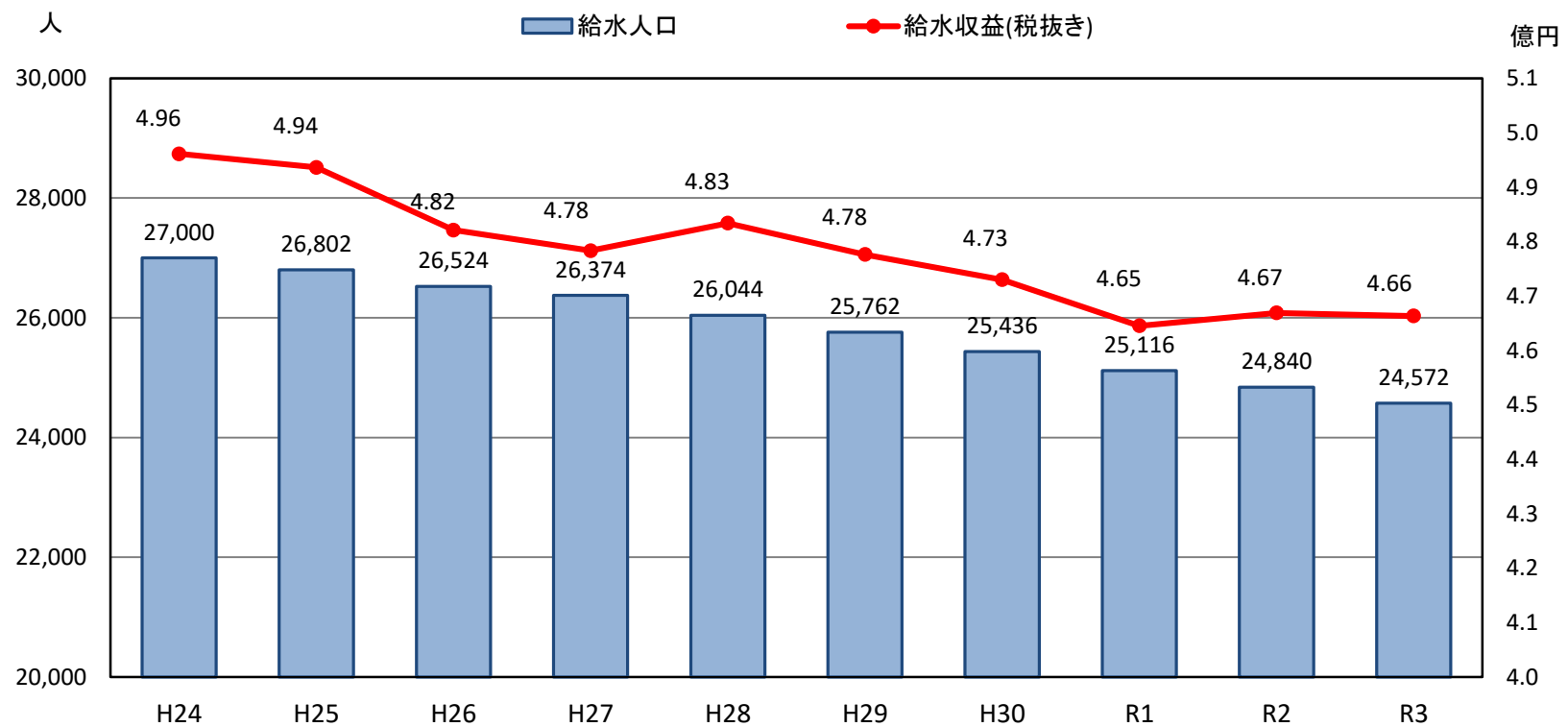
2 水道事業の現状と課題

(1) 水需要の動向

②給水人口・給水収益の推移

- ✓ 近年では人口減少や節水型社会への移行等により、使用水量の減少が続き、料金収入も減少しています

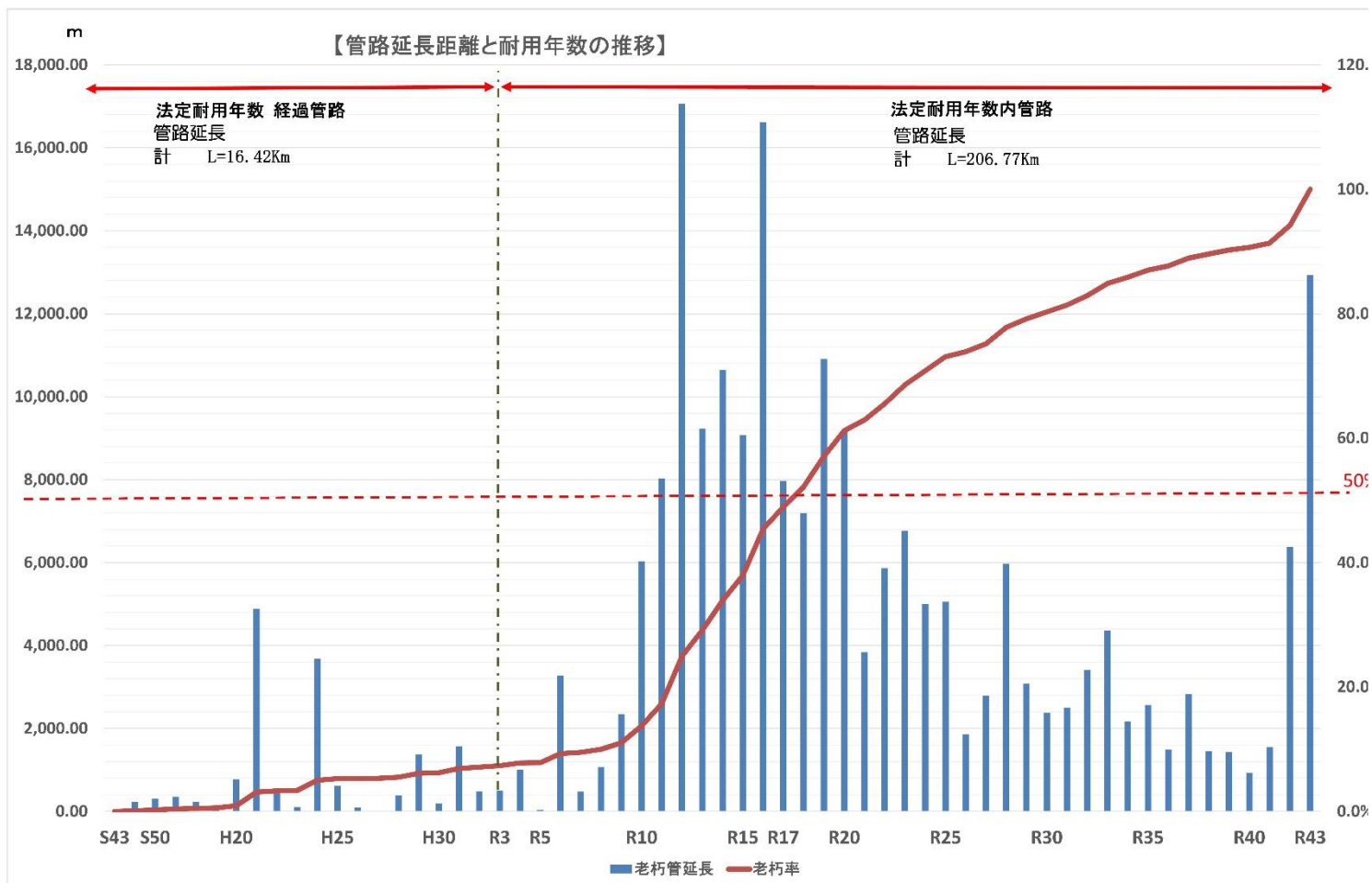
過去10年間の給水人口・給水収益の推移



2 水道事業の現状と課題

(2) 水道施設の老朽化

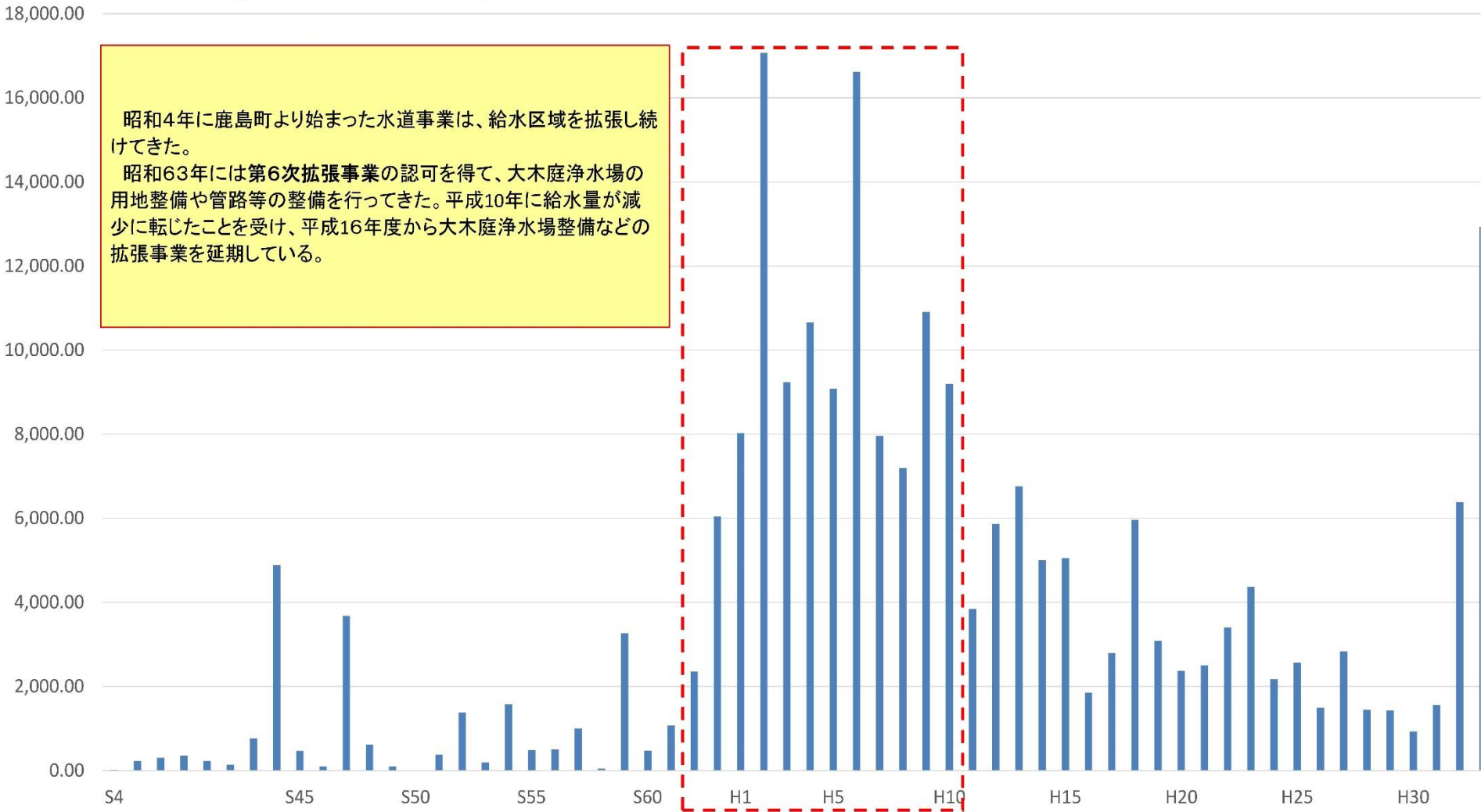
- ✓ 令和3年度末に法定耐用年数を経過した管路は16.42kmです
- ✓ 令和17年度には、老朽化率は50%を超えて、100km以上の管路が老朽化することになります



2 水道事業の現状と課題

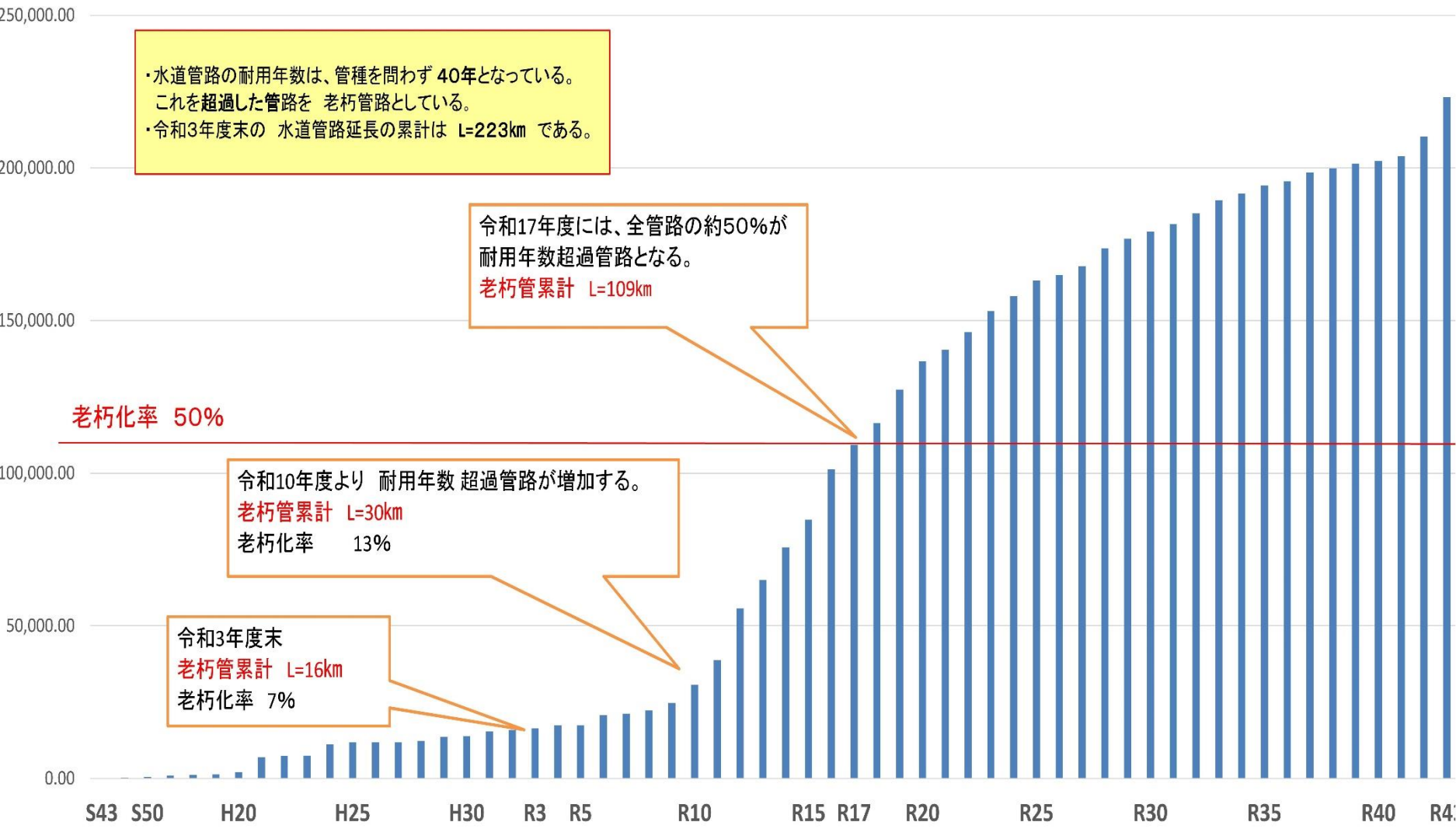
m (2)―① 布設年度別 管路延長

昭和4年に鹿島町より始まった水道事業は、給水区域を拡張し続けてきた。
昭和63年には第6次拡張事業の認可を得て、大木庭浄水場の用地整備や管路等の整備を行ってきた。平成10年に給水量が減少に転じたことを受け、平成16年度から大木庭浄水場整備などの拡張事業を延期している。



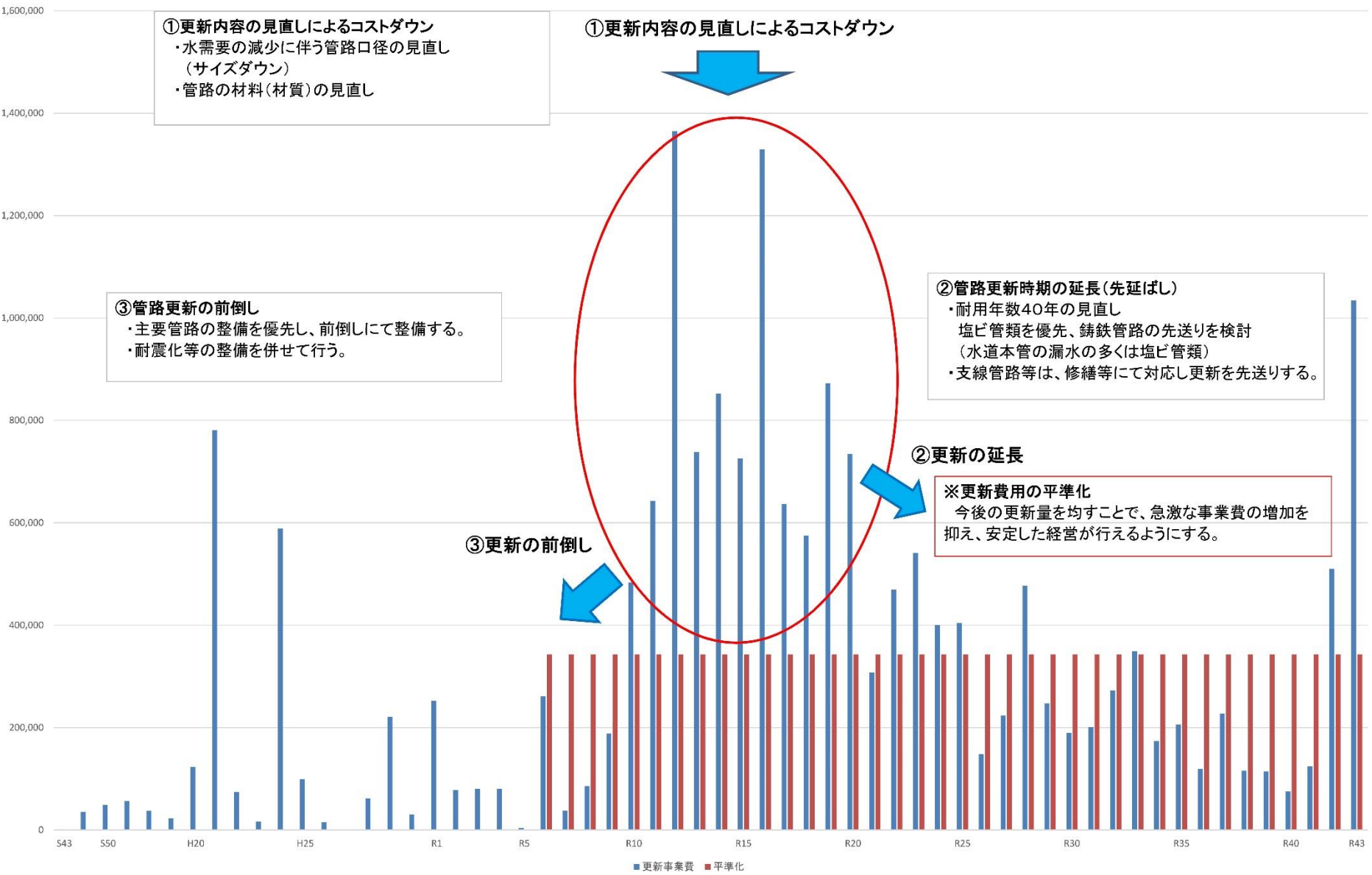
2 水道事業の現状と課題

(2)一② 更新を行わなかった場合の老朽管路累計



2 水道事業の現状と課題

(2)ー③ 更新事業費と 更新の見直し

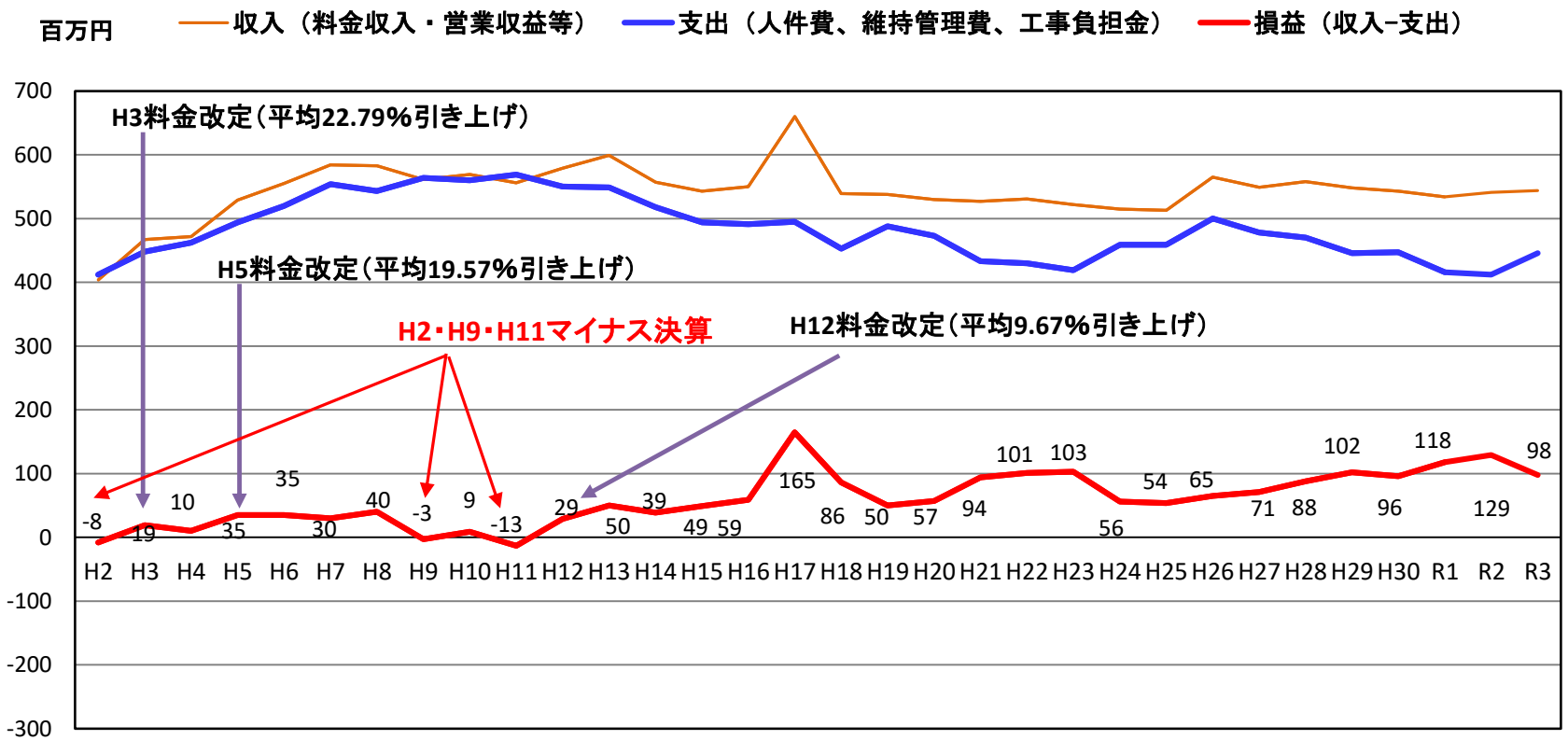


2 水道事業の現状と課題

(3) 水道事業の経営状況

- ✓ 平成2・9・11年度に収入-支出がマイナスとなっています
- ✓ 平成3・5・12年度に料金改定を行っています

収益的収支の推計



3 計画目標とその概要

安全

安全でおいしい水道水の供給

- 水質検査計画を策定し、水質検査管理体制を強化します
- 水質検査の結果を公表します

強靱

強靱な施設・体制による給水の確保

- 水道施設の計画的な更新
- 水道施設の耐震化
- 水道施設の統合と保守・安全
- 事故・災害時における復旧体制の強化
- 安定した水源の確保
- 漏水調査の強化

持続

持続可能な経営基盤の確立

- 健全かつ安定的な事業経営
- アセットマネジメントによる適正な資産管理
- 中長期的な視点に立った財政シミュレーション

3 計画目標とその概要

アセットマネジメントによる適正な資産管理

※アセットマネジメントとは・・・将来にわたって水道事業の経営を安定的に継続するための長期的な視野に立った計画的な資産管理をいいます

本市水道事業の現有資産等を法定耐用年数で更新する場合、現時点での見込みによると、100年間で構造物・設備は約60億円、管路では約343億円の費用が必要となります。これに対して、水道料金収入については、給水量の減少に伴い減少することが予想されます。

このような状況の中、更新事業を着実に進めるためには、適正な維持管理による水道施設の長寿命化や施設の統合を進め、更新費用の抑制と平準化を図る一方、長期的な収支の見通しを立てる必要があります。

本市ではアセットマネジメント手法を用いて、中長期的な視点に立った財政シミュレーションにより収支の試算を行っていきます。

3 計画目標とその概要

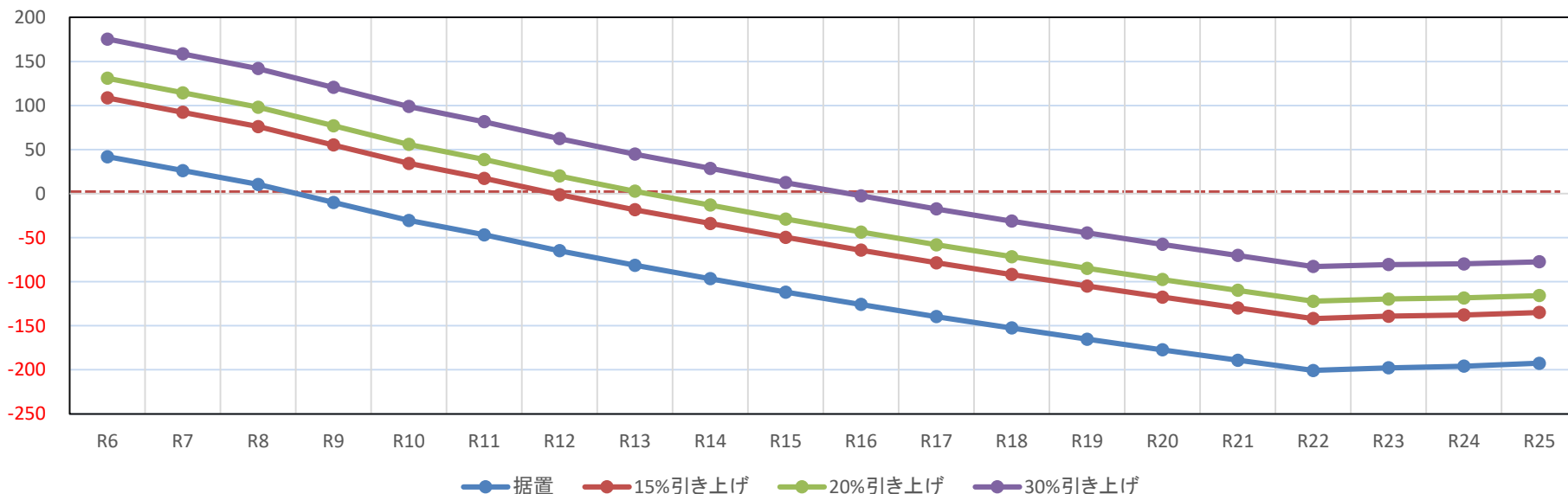
中長期的な視点に立った財政シミュレーション

■ 現行の料金で据置した場合と、令和6年度にそれぞれの改定率で料金改定した場合の収益的収支（損益）の動向

- ✓ 現行の料金で据置した場合 ⇒ 令和9年度に赤字となる見込み
- ✓ 平均改定率15%引き上げの場合 ⇒ 令和12年度に赤字となる見込み
- ✓ 平均改定率20%引き上げの場合 ⇒ 令和14年度に赤字となる見込み
- ✓ 平均改定率30%引き上げの場合 ⇒ 令和16年度に赤字となる見込み

百万円

収益的収支(損益)の動向



中長期的な視点に立った財政シミュレーション

水道料金の収入については、給水量の減少に伴い、減少していくことが予想されます。また、基幹管路の耐震化や管路更新の推進により、損益がマイナスになり、留保資金残高が減少していくことも推測されます。

将来にわたって安定的な水道事業の経営基盤を確立するためには、事業環境に対応した適正な料金体系のあり方について検討を行っていく必要があります。

その上で、水道料金は財政シミュレーションの収支の試算に基づき、3年後から5年後までの期間ごとの適切な時期に見直しを行うものとし、第1次中長期財政計画においては、令和6年度をめどに料金改定の検討を行っていきます。